

■ 檜山管内の状況及び学力向上策（小学校数：16校、児童数：159人）（中学校数：10校、生徒数：179人）

【教科全体の状況】

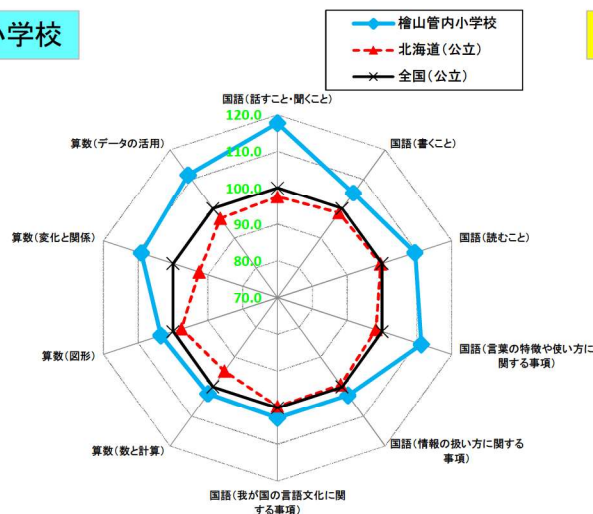
【レーダーチャート】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況
（「管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100」で算出）

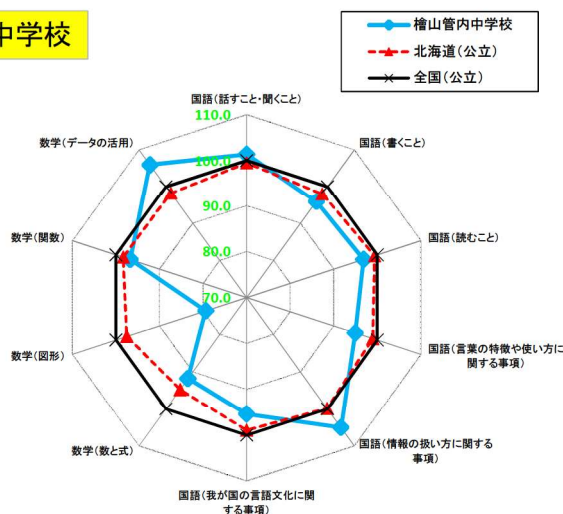
【管内の平均正答率】

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
檜山管内	74[74.3]	67[67.1]	57[57.0]	50[50.0]
全国	68[67.7]	63[63.4]	58[58.1]	53[52.5]

小学校

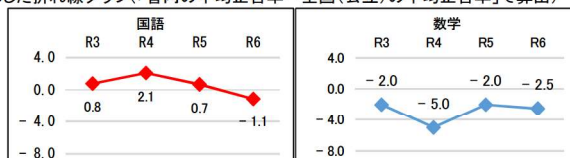
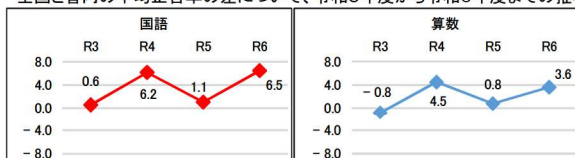


中学校



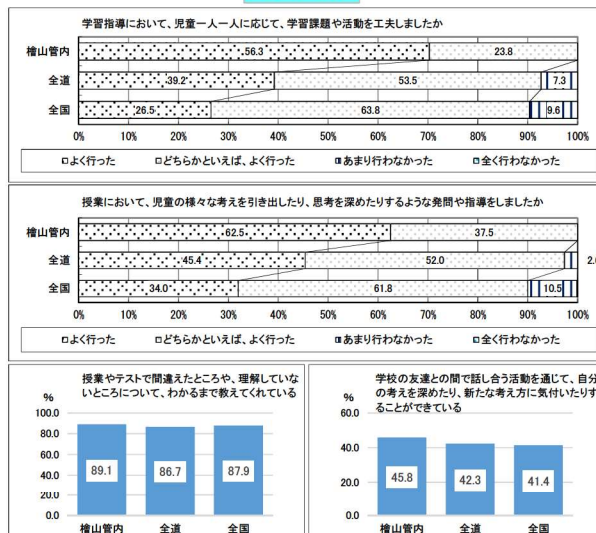
【平均正答率の推移】

全国と管内の平均正答率の差について、令和3年度から令和6年度までの推移を示した折れ線グラフ（「管内の平均正答率－全国（公立）の平均正答率」で算出）

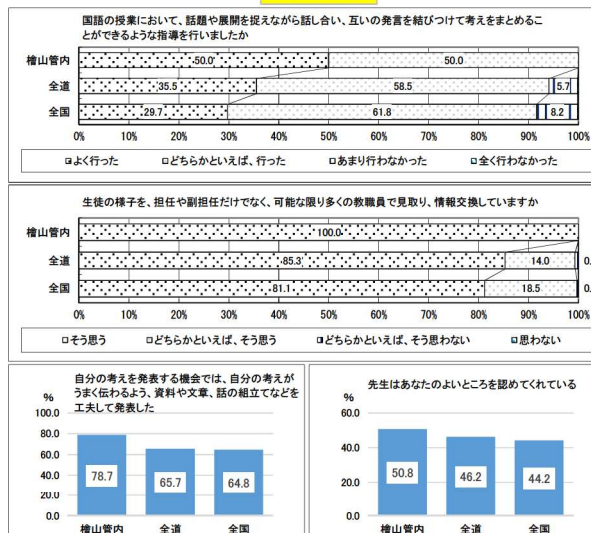


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの学校で、児童一人一人に応じて、学習課題や活動の工夫をよく行い、安心して学べる授業づくりを進めたことなどにより、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについてわかるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を取り入れた授業をよく行ったことなどにより、「協働的な学び」の充実が図られ、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめることができるような指導をよく行ったことなどにより、自分の考えを相手に伝える力や友達の意見を聞く力が高まり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をするとともに、生徒一人一人の良さを認める取組を進めたことなどにより、先生はあなたのよいところを認めてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【檜山管内の学力向上策】

1. 管内教育の重点（学力）

- 持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成
 - ・就学前から卒業後までを見通した教育を実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進
 - ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための、これまでの実践とICTとのベストミックス

2. 具体的な改善策

- 学力向上に関する指導・助言の質の向上
 - ・学校教育指導訪問とEBE協議会の取組を核として、各学校における学力向上に関する取組を支援する。
- エビデンスに基づいた検証改善
 - ・EBE協議会では、町教委訪問や管内で実施している中高連絡協議会等の取組との関連を図り、小学校から高校までを見通した検証改善サイクルの確立に向けた方向性を共有する機会とする。
- オール檜山「学び合い」プロジェクトの取組の推進
 - ・算数・数学科の系統的な指導やICTを活用した授業の充実が図られるよう、短時間の授業モデル動画の活用や継続的な研修の実施、地域課題にかかる協議の実施を通して、管内の課題解決に向けた取組を推進する。

3. 具体的な取組計画

